

社会科の授業づくり

～ICTの活用～

岐阜県教育委員会

令和6年3月 更新

新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

2030年の社会と子供たちの未来（平成28年12月中央教育審議会答申から抜粋）

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難に

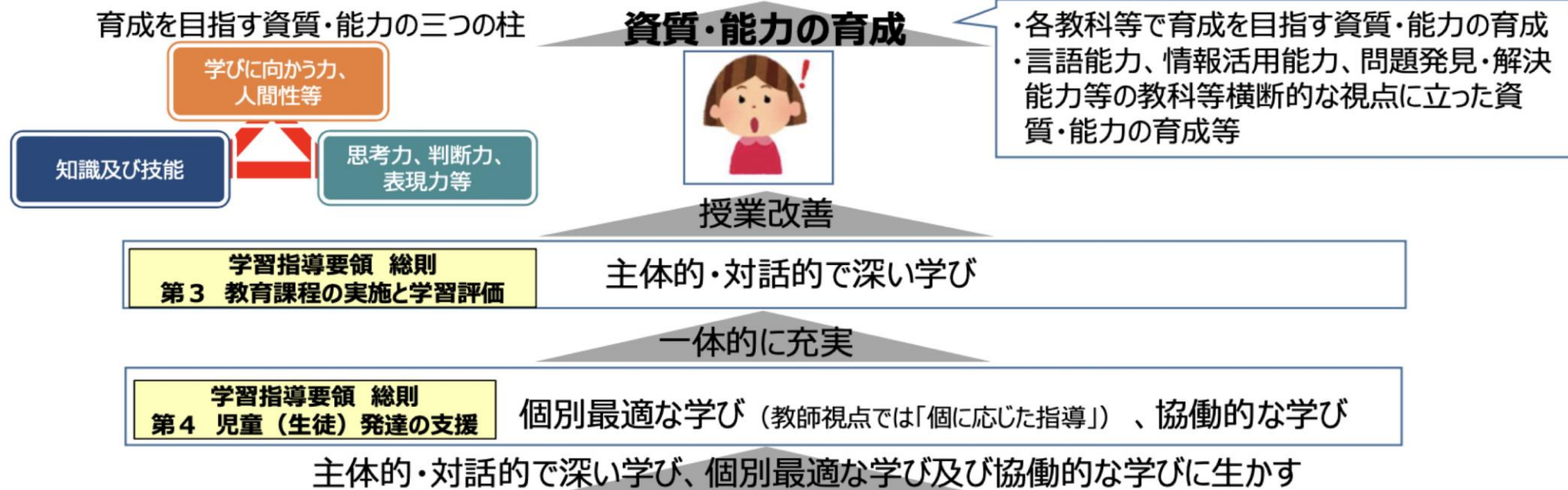


社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代

変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものに

平成29年、30年、31年学習指導要領

前文 これからの学校には、（略）一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。



GIGA※スクール構想（1人1台端末・高速ネットワーク）（カリキュラム・マネジメントにおける物的な体制整備に位置付けられる。）

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するため重要な役割を果たす。

※Global and Innovation Gateway for Allの略

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

それぞれの学びを一体的に充実し

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

①個別最適な学び

指導の個別化…

- ・ 支援が必要な子供により重点的な指導
- ・ 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定

学習の個性化…

- ・ 子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供

②協働的な学び

- ・ 探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働
- ・ 一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

校務の効率化

教育データ利活用による効果的な学びの支援

GIGAスクール構想（1人1台端末・高速ネットワーク）

全ての子供たちの可能性を引き出し、学習指導要領の趣旨を実現するための個別最適な学びや協働的な学びのためにICTの活用が効果的

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

社会科におけるICTの活用

学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにすること。また、全ての学年において、地図帳を活用すること。

(小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 社会編 p.143)

情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かれようとして学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。

(中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 社会編 p.177)

社会科における学習過程のイメージ

課題把握

動機付け

- 学習課題を設定する。
- 課題意識を醸成する。

方向付け

- 課題解決の見通しをもつ。

課題追究

情報収集

- 予想や仮説の検証に向けて調べる。

考察・構想

- 社会的事象の意味や意義、相互の関連を考察する。
- 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する。

課題解決

まとめ

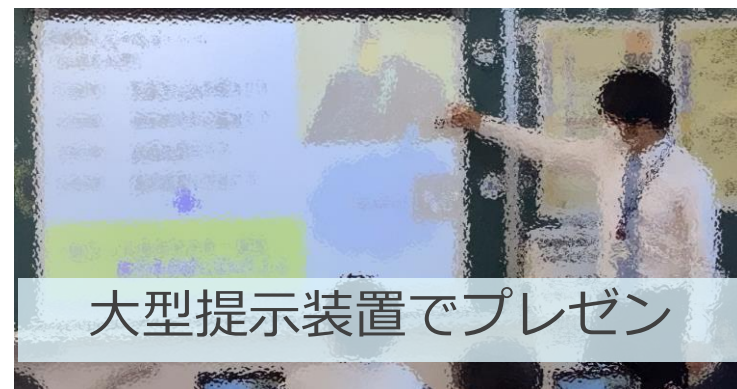
- 考察したことや構想したことをまとめる。

新たな課題

振り返り

- 学習を振り返って考察する。

社会科におけるICTの活用の様子



大型提示装置でプレゼン



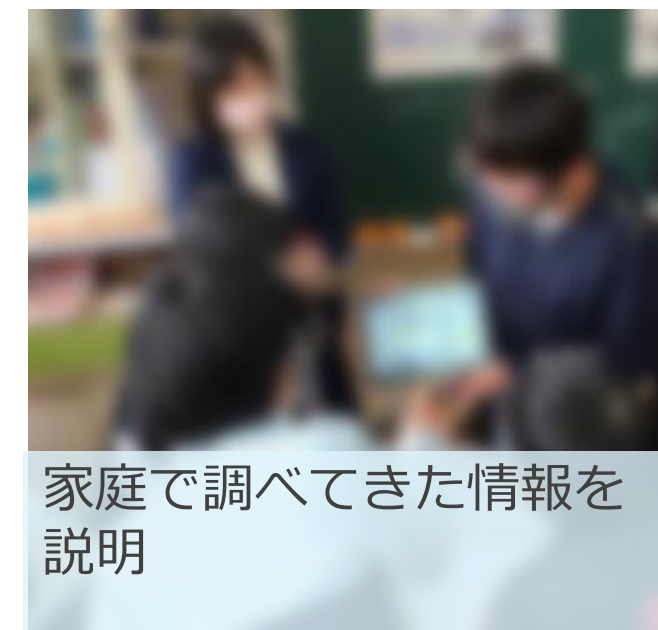
思考ツールを用いて思考の整理



インターネットを用いて情報収集



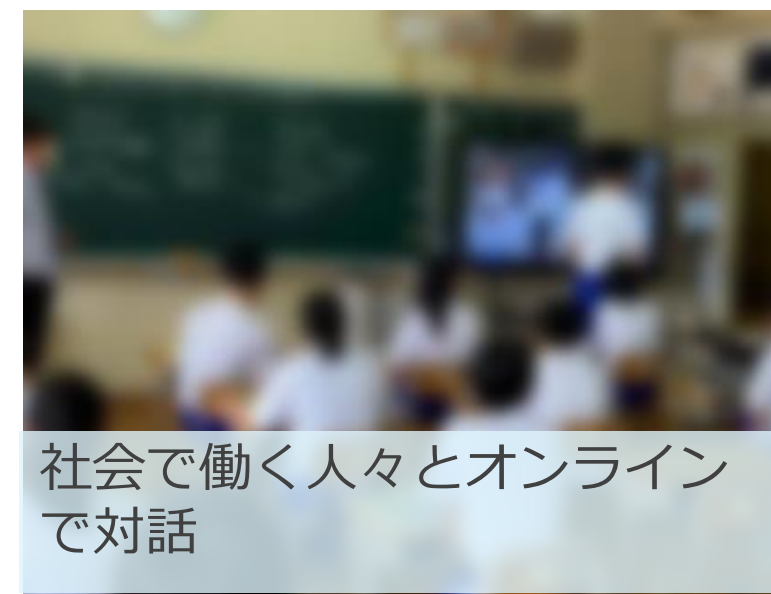
協働学習支援ツール等を用いて考察



家庭で調べてきた情報を説明

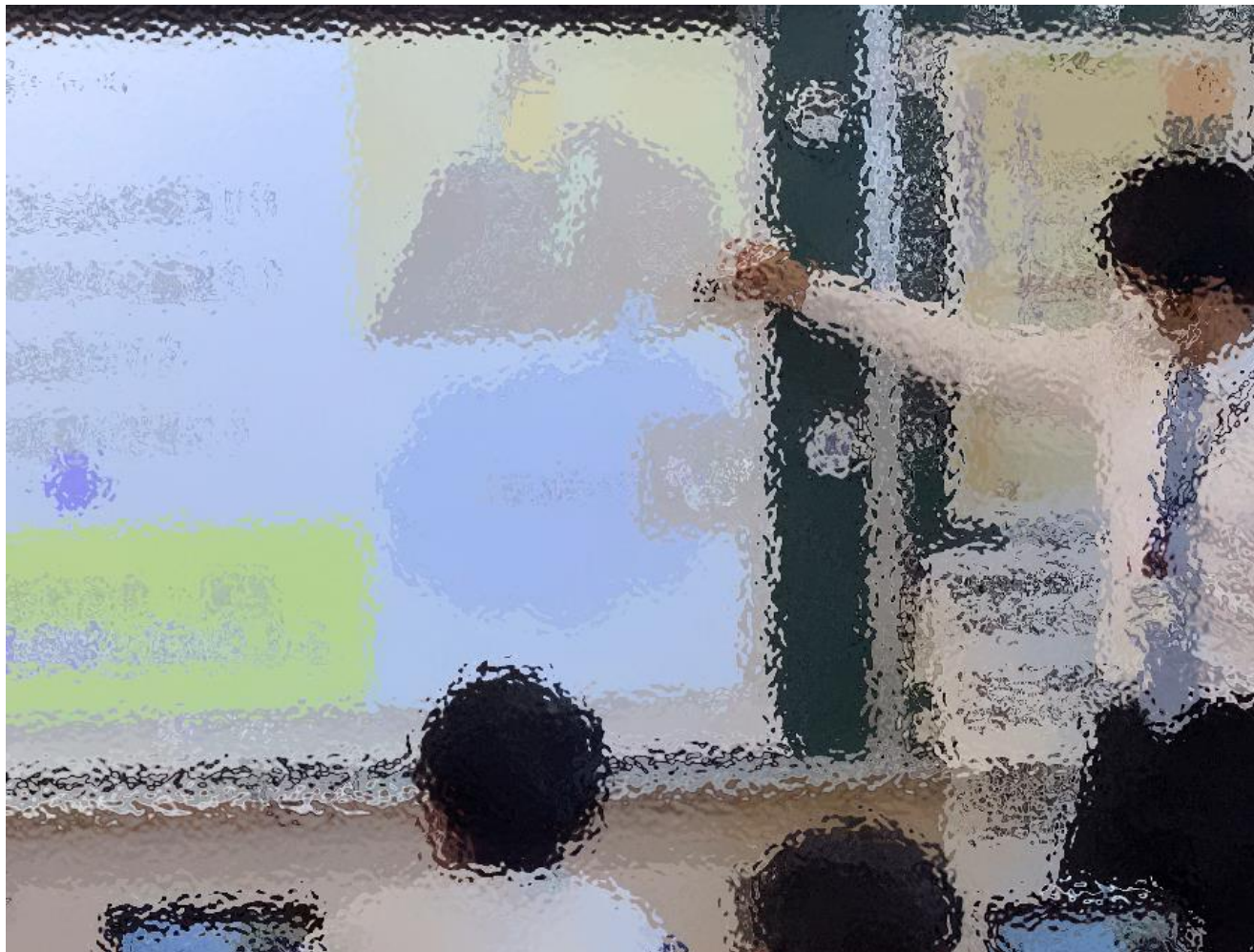


蓄積した学びをアプリを用いて表現



社会で働く人々とオンラインで対話

大型提示装置でプレゼンテーション



＜活用時のポイント＞

- 資料や画像を焦点化して提示する。
- 児童生徒の気付き、疑問を最大限に生かす。
- 情報量の多いスライドを作り込まない。

協働学習支援ツール等を用いて考察



<活用時のポイント>

- 複数の資料の比較・関連・総合を図る。
- 児童生徒が自ら資料を選択できるようにする。
- 事実の読み取りと学習課題への考察を明確にする。

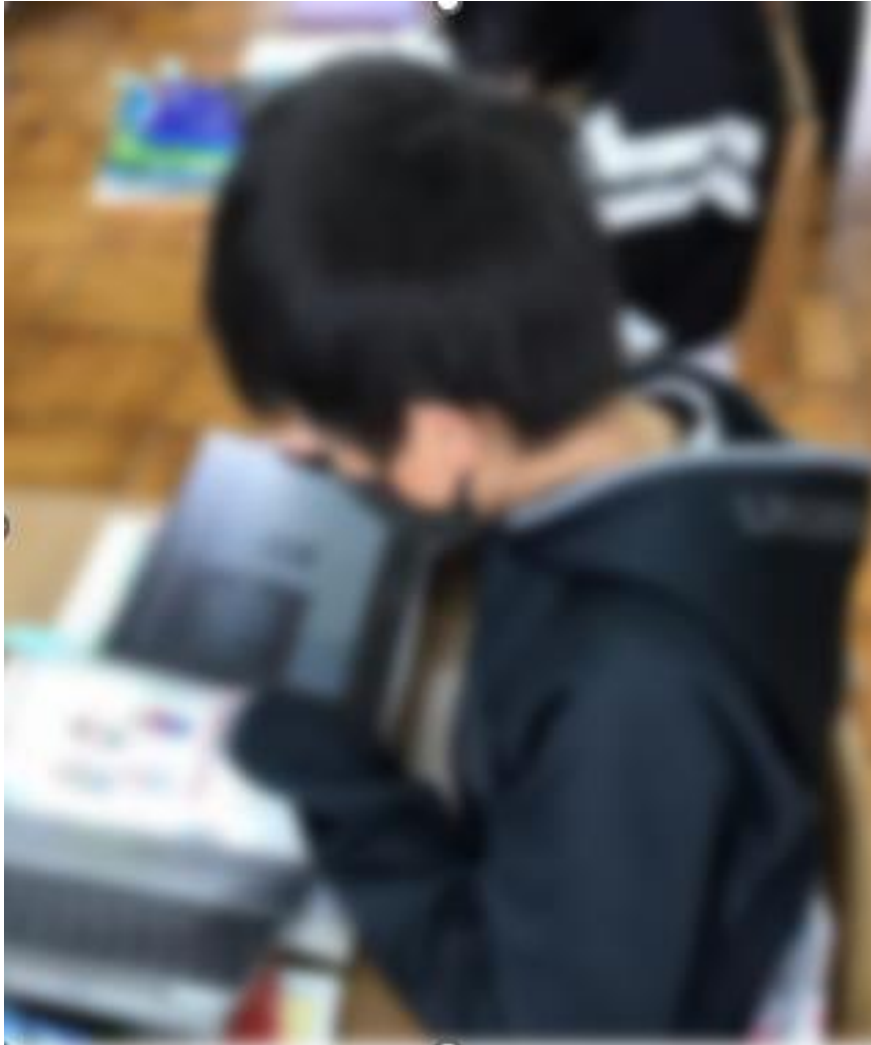
思考ツール等を用いて情報や思考を整理



<活用時のポイント>

- 児童生徒自身が視点を立てて情報や考えを整理する。
- 資料等から読み取ったことを整理する場合と考察したことを整理する場合を区別する。

インターネットを用いて情報収集



＜活用時のポイント＞

- 教師が学習課題に関連するWebサイトをあらかじめ調べておき、学習の中で活用できるようにしておく。
- 情報の出典を確認し、客観性の高い情報を扱う。
- 著作権の取り扱いや情報モラルを確実に理解しておく。

蓄積した学びをアプリ等を用いて表現



<活用時のポイント>

- 単元で学習したことを基に、見方・考え方を働かせられるようにする。
- 単位時間当たりの学習のまとめを同一の様式で進める。

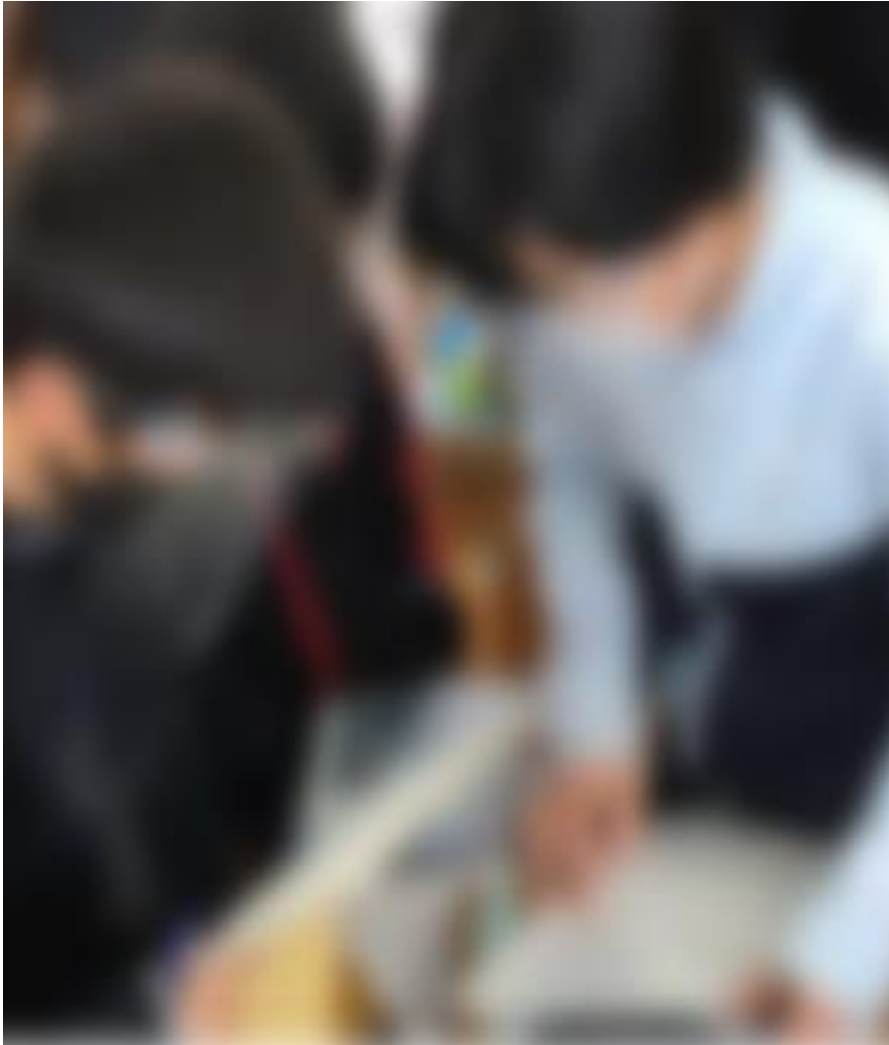
社会で働く人々とオンラインで対話



<活用時のポイント>

- 説明を聞いて話し合うなど、一人一人の児童生徒が対話的な学びを進められる工夫をする。
- あらかじめやり取りをする方と打ち合わせを行い、対話のポイントを共通理解しておく。

家庭や地域で調べてきたことを交流



＜活用時のポイント＞

- 新しく学習する内容について、事前に調べた内容をICT端末に保存しておく。
- 単元を通じて考えてきたことを発展させて、家庭や地域の中で実践するなどした様子について、教科等横断的に話し合う場を位置付ける。

一覧表示で考えの共有

- 仲間が気付いたことや考えたこと、問い（なぜ、どうしたら）と比べる。

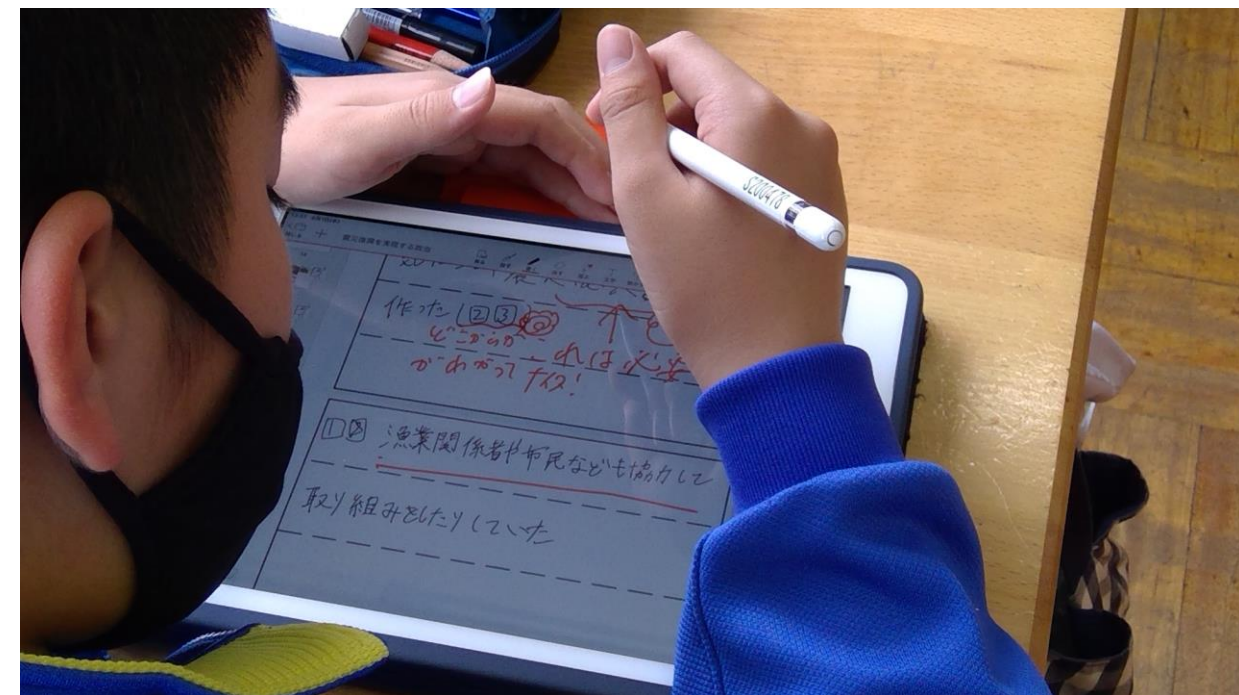


共有機能を用いて共同追究

- 仲間とともに共通の課題に向けて、ICT端末の画面を共有しながら共同編集する。



指導援助と価値付け



- ICT端末で子ども一人一人の実態を把握する。
- 子どもの考えのよさの価値付けや、困っている子どもへの指導・援助を行う。

アンケート機能で調査

<活用時のポイント>

- 単元に関する意識や身近な生活との関連について調査する。

質問 回答 11 設定

第3学年「店ではたらく人」

自分の家の買い物の様子を思い出して答えましょう。

あなたは（あなたの家では）週に何回買い物に行きますか？ *

1回

2回

3回

小テストの実施

<活用時のポイント>

- アンケート機能を用いて、既習内容に関する知識等を確認する。

中学校歴史「古代国家の歩みと東南アジアの世界」

合計点 0/30点 ?

小学校で学んだことを振り返ってみましょう

× ア（聖武天皇）、イ（藤原道長）、ウ（聖徳太子）の人物を、正しい時代順に並んでいるものを選びましょう。 *0/10

ア→イ→ウ

ウ→イ→ア ×

イ→ア→ウ

ウ→ア→イ

ア→ウ→イ

正解

ウ→ア→イ

共有フォルダ等の活用

<活用時のポイント>

- 児童生徒が学習課題の追究に活用できる資料やWebサイトなどのURLを保存しておく。
- 単元において活用する資料や動画、児童生徒が学びの調整等に活用するワークシートなどを共有フォルダに保存し、いつでも、誰でも活用できるようにしておく。

単元を貫く問い 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。

単元の導入 社会を担う主権者となるために

「単元を貫く問い」を読んで生まれた疑問

「単元を貫く問い」に対する答えの予想

問いの解決のために役立つような学習事項

1 社会の課題を解決するために

まとめ

なぜ国会を通じて政治が行われるのか。議会制民主主義がうまく機能するために大切なことは何か。

学習を振り返って気付いたこと

授業者が評価を記入する。

問いは予め書かず、記入させる際に教師が表示する。 問 A・B・C

2 社会の課題に国全体で取り組むには～食品ロスを例に～

まとめ

国会、内閣はそれぞれどのような役割を担っているのか。また、どのような関係にあるか。

学習を振り返って気付いたこと

学習者が学習を通して気付いた点や以降の学習への見通しを記入する。授業者は記述をどうから学習の改善に向けた指導を行う。

問 A・B・C

3 公正な裁判の保障は人々の人権を守ることになるのか

まとめ

なぜ裁判は法に基づいて行われるのか。私たちの人権を守ることとの関係を説明してみよう。

学習を振り返って気付いたこと

問 A・B・C

4 社会の課題を私たちの力で解決していくために

まとめ

なぜ地方公共団体の政治は国と異なるのか。

学習を振り返って気付いたこと

問 A・B・C

単元のまとめ 主権者として社会に参画するためには

① これまでの学習を生かして「単元を貫く問い」の答えを論述しよう。その際、「対立と合意」、「効率と公正」、「個人の尊厳と法の支配」、「民主主義」などに着目してみよう。 問 A・B・C

② 単元の学習を振り返り、これからも問い続けて（考え続けて）いきたいこと、問い続けたい理由（解決によって社会をどのようにしていきたいのか）を書こう。 問 A・B・C

【ICTを活用する際の注意点】

- ICTを活用するために、教師の指示ばかりにならないこと。
- 児童生徒が自らの選択によって活用できるようにすること。
- ICTを用いた活動のみが学習の中心とならないこと。
- 個々の学習状況を見取り、適切に支援すること。
- ICTの活用の仕方のみにとどまらず、学びの在り方そのものから授業改善を図るようにすること。

ICTの効果的な活用

教師の指導・援助

その子に力を付ける活用

児童生徒の学び

その子らしさが溢れる活用



ICTを使うと、
学びが深まる、力が付く、学ぶことが楽しい
「学ぶ喜び」

社会科の授業づくり～問題解決的な学習～

岐阜県教育委員会